

中予ブロック集会開催報告書：子ども未来が輝くシン地域教育

1. 開催概要

本報告書は、地域における子ども若者たちの豊かな学びを広げる地域教育の実践に焦点を当てた「中予ブロック集会」の開催内容をまとめたものです。今年は久万高原町を会場に、例年以上に多くの参加者を得て、活発な交流と学びの機会が提供されました。

- **開催目的：**子どもが輝く地域教育について語り合い、明日からの活力を養うこと。
- **日時：**2025年7月21日 月曜日・祝日 13時から16時
- **場所：**久万高原町（会場内はクーラーが効いており、快適な環境が提供されました。）
- **参加者：**93名（事前申し込み83名） 一般86名 学生7名
- **使用システム：**リアルタイム文字起こしアプリケーション「UDトーク」が導入され、情報共有の円滑化が図られました。

2. 開会式

司会者からの案内により、参加者はくじ引きで決定したグループ席に着席しました。会議中はスマートフォンのマナーモード設定が呼びかけられ、UDトークシステムの活用についても説明がありました。開会の挨拶では、久万高原町への歓迎の意が述べられ、地域教育実践の重要性が強調されました。

3. 実践発表

本集会では、二つの地域教育実践事例が発表されました。

3.1. 久万護神太鼓の発表

久万五神太鼓の発表では、発表者自身の太鼓との出会いから、地域における継承活動、そして次世代へのバトンタッチに至るまでの熱い思いが語られました。

- **太鼓との出会いと継承の経緯：**発表者が幼少期から太鼓に触れ、高校時代に本格的に活動を開始。先代のメンバーが病で亡くなった後、宮司から面を託され、太鼓の継承者としての自覚を持つに至った経緯が紹介されました。
- **少年組の再始動と子育て：**発表者が自身の子供を巻き込み、少年組の指導を再開。自己完結型で活動を続ける中で、子供たちが自ら太鼓の練習に参加し、地域に貢献する姿が語られました。特に、長男が高校野球の誘いを断り、地元に残って太鼓を続ける選択をしたエピソードは、地域への深い愛着と継承の意義を示しました。
- **太鼓を通じた教育と成長：**太鼓の指導を通じて、子供たちの自主性やリーダーシップが育まれる様子が述べられました。また、国際交流の機会もあり、太鼓が世界との架け橋となっている可能性も示唆されました。
- **質疑応答のポイント：**

- **後継者育成のエッセンス：**発表者は、人前で演奏し拍手をもらう経験が子供たちの活力となり、自主性を尊重することが重要であると述べました。
- **楽譜の有無と伝承：**久万五神太鼓には楽譜がなく、口伝や見て覚える形で伝承されていることが明かされました。
- **太鼓のストーリー：**戦国時代の伝承に基づき、窮地を脱した武士たちが太鼓を叩いたという物語が背景にあることが紹介されました。

3.2. 高校生の発表（くまもるず）

上浮穴高校の農業教員からの導入に続き、生徒たちが「くまもるず」としての3年間の活動を発表しました。

- **久万大豆・地雑穀の紹介と研究の動機：**久万高原町で誕生した在来品種「久万大豆」が、輸入自由化により幻となった歴史と、それを復活させるための研究動機が説明されました。
- **研究の実施と成果：**
 - **久万大豆の栽培：**遺伝資源研究センターからの種子取り寄せ、栽培技術の継承、そして猛暑の中でも豊かな収穫を得た成功事例が報告されました。学校がシードバンクとなり、地域への栽培継承が広がっていることが強調されました。
 - **商品開発：**地雑穀を活用した「ぷちきびカレー」やグルテンフリーの雑穀サブレが地域企業と連携して開発され、道の駅やマルシェでの販売、ふるさと納税返礼品への採用など、地域活性化への貢献が示されました。
 - **普及活動：**小学生との交流学习でのカレーナン作りや、自由研究キットの開発、豆腐作り教室などを通じた食育・地域資源PR活動が紹介されました。
- **研究の評価とまとめ：**愛媛大学社会共創コンテストでのグランプリ受賞など、多方面からの高い評価が報告されました。活動を通じて、農業高校生の専門知識が地域資源の復活・継承に貢献できることを実感し、地域資源を守ることが世界に繋がるグローバル活動であるという展望が示されました。
- **質疑応答のポイント：**
 - **種子の入手と継承条件：**地域農家から種子を分けてもらい、学校で栽培・配布しているが、「種を残す」という条件で提供していることが説明されました。
 - **栽培が途絶えた理由：**収益性の低さと、収穫後の手間が要因であることが語られました。
 - **夏休みの世話：**県外生が多く、世話が行き届かない中でも雑穀の特性により育つことが示されました。
 - **久万大豆に焦点を当てた理由：**20年以上前に途絶えた久万大豆の普及プロジェクトを復活させるためであると述べられました。
 - **次のターゲット作物：**落花生の栽培を始めたことが明かされました。
 - **「くまもるず」の語源：**「久万を守るず」から来ていることが紹介されました。

- **県外出身生徒の視点：**地域みらい留学制度を通じて久万高原町に来た生徒たちが、よそ者だからこそ見える地域の現状や課題に取り組む意義を語り、地元出身の生徒も加わり、多様な視点から地域教育が展開されていることが強調されました。

4. ワークショップ

参加者全員で「シン地域教育」について考えるワークショップが行われました。

- **ワークショップの目的：**地域教育の概念を深め、各自が「シン地域教育」の「シン」に込められた意味を探求し、今後の地域教育への取り組みについて考えること。
- **進行：**MCによる説明と協力のお願（互いの尊重、承認、秘密保持）の後、グループに分かれて活動。
- **活動内容：**
 1. 自己紹介と実践発表の感想交流。
 2. 自身の考える「シン地域教育」の「シン」一文字を選び、その意味と今後の取り組みについて議論。
- **全体交流のポイント：**参加者からは「思いやりの先を考える（バリアフリー化の視点）」、「過去は振り返らず前へ進む」、「地域や文化に親しむ」、「深く考える」、「横と縦の繋がりを大切にする」といった多様な「シン」の解釈が共有されました。特に、東京からの移住者が興居島で地域教育NPOを立ち上げた事例が紹介され、地域教育の実践が広がりを見せていることが示されました。

5. 閉会行事

司会者からのワークショップの振り返りでは、参加者が「仲間の存在」を知り、「頑張る人」から力をもらい、「自分の思いを伝え、人の意見を聞く」ことで思いが確かなものになったと述べられました。

- **各団体からの告知・宣伝：**
 - 高校生大会の協賛金募集（8月10日愛媛大学で開催）。
 - 愛媛県教育委員会社会教育課からのイベント告知（8月7日「花の日笑顔で繋ぐ学校地域の集い」）。
 - CIL星空（障害者自立サポート団体）からの活動紹介と協力依頼。
 - 地域教育実践交流集会のバンドシステムへの登録案内。
- **代表からの総括：**地域教育実践ネットワーク愛媛代表からは、世の中には「変えてはいけないもの」と「変えなければならないもの」があり、社会教育が超高齢化、人口減少、情報化、自然災害多発社会といった流れの中で、「あのおいちゃんみたい」「あのにいちゃんみたい」と子供たちが育ってくれることを願う思いが語られました。
- **アンケートのお願い：**今後の活動に繋げるため、参加者へのアンケート協力が呼びかけられました。

6. まとめ

本中予ブロック集会は、「子ども未来が輝くシン地域教育」というテーマのもと、久万護神太鼓と上浮穴高校「くまもるず」による二つの素晴らしい地域教育実践事例が共有されました。参加者は、これらの発表を通じて地域の文化や資源を守り、次世代に繋ぐことの重要性を再認識しました。ワークショップでは、多様な視点から「シン地域教育」が議論され、参加者間の交流と学びが深まりました。本集会は、地域教育の活性化に向けた大きな一歩となり、参加者一人ひとりが明日からの活動への活力を養う貴重な機会となりました。